

# 施策マネジメントシート1(22年度目標達成度評価)

作成日 平成 23 年 5 月 30 日  
更新日 平成 23 年 7 月 13 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	施策統括部	教育部	部長名	大島 泉
	施策No.	20	施策名	生涯学習の推進	施策主管課	生涯学習課	課長名	上原 哲也
					関係課	学校教育課、人権啓発教育課		

## 1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) \* 人や自然資源等  
・市民  
・市外からの通勤・通学者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)  
生涯に亘って目標・目的を持ち、学習やスポーツを行っている

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) \* 数字は記入しない

名称	単位
A 人口	人
B 市外からの通勤・通学者	人
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) \* 数字は記入しない

名称	単位
A 目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合	%
B	
C	
D	
E	
F	

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

設問:「あなたは目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っていますか?」  
選択肢:①週に2回以上行っている、②週に1回行っている、③月に2、3回行っている  
④月に1回行っている ⑤ほとんど行っていない

※「学習やスポーツ」とは、学校や地域社会の中で行われる組織的な学習活動だけでなく、個人的なスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動なども含みます。  
(目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合=①~③を回答した人/全回答者数)

## 2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A 人	見込み値				53,909	54,518	55,124	55,732	
		実績値	52,085	52,695	53,304	54,047	54,407	54,856	55,828	
	B 人	見込み値			14,951	15,756	16,561	17,366	18,171	
成果指標	A %	見込み値				41.0	41.3	41.6	42.0	
		実績値	未把握	未把握	46.2	48.6	45.8	37.0	40.2	
	B	見込み値								
	C	見込み値								
	D	見込み値								
	E	見込み値								
事務事業数					71	72	73	79	77	
施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			0	509	494	0	1,517
		都道府県支出金	千円			0	0	0	1,438	1,986
		地方債	千円			3,458	4,800	0	0	63,420
		その他	千円			20,734	18,112	20,100	43,628	40,340
		繰入金	千円			1,296	865	1,243	0	0
	一般財源	千円			320,016	313,235	287,104	272,983	343,363	
	事業費計(A)	千円	0	0	345,504	337,521	308,941	318,049	450,626	
	(A)のうち指定経費	千円			8,246	35,612	36,208	73,546	78,230	
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円			772	787	814	722	1,129	
	人件費	延べ業務時間	時間			23,697	23,733	24,100	25,557	23,983
	人件費計(B)	千円			94,788	94,931	96,400	101,685	98,810	
トータルコスト(A)+(B)			千円	0	0	440,292	432,452	405,341	419,734	549,436
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)			「A」の目標、目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合については、高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想されるが、生涯学習にあまり取り組んでいない若い世代の人口の増加を加味すると、22年度までは18年度の水準の40.8%と設定した。 目標値は、高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えることに加えて、18年度以降に新春マラソン大会の実施、市民大学の開設、地域型スポーツクラブの拡充に取り組むなどにより若い世代が参加しやすい環境づくりに重点的に取り組むことで、平成22年度では、1.2%増加し、42.0%になると設定した。							
基本計画期間における施策の方針			生きがいのある人生を送るため市民自ら生涯学習に取り組みやすい環境づくりにつとめる。							
全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携			・関連性あり ・子どもを地域で育てる学習環境づくり(総合型地域スポーツクラブ、地域自治会等)							

## 施策マネジメントシート2(22年度目標達成度評価)

生涯学習の推進

### 3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・住民は、市主催又は地域主催等の色々な事業に参加する。学習意欲や運動意欲を持ち、自主的に取り組む。
  - ・地域、団体は、地域でのレクリエーションや体育活動、各種講座を開催する。

イ) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・各種スポーツ大会の開催及び支援
- ・各種講座やニュースポーツの紹介など、生涯学習のきっかけづくりとしての事業の実施
- ・各種施設(公民館、図書館、体育館、グラウンド等)の管理・運営
- ・リーダーの育成

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成23年度を見越して)

- ・高齢者が増加することで、学習や自分の体力にあったスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想される。
- ・各種施設の老朽化がすすみ、維持管理費の増加が予想される。
- ・社会情勢の変化に伴い、多用な状況に応じた図書整備が更に必要になると予想される。
- ・地域では、レクリエーションスポーツの実施が増えているが、今後もこの傾向は続くと思われ、種目ごとに必要な器具や用具の早急な整備が必要になってくる。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・市民から、各種スポーツ教室の内容拡充の要望が多い。
- ・団体から、施設利用規定(申請者側の予約辞退に伴う使用料返還関係)の見直しを行って欲しいとの要望がある。
- ・ニュースポーツ(ベタンク、カローリング他各種スポーツ)の振興を図るべき。
- ・旧町に囚われず、市全体のスポーツ大会を実施し、旧町間の交流を図りながら生涯学習を推進すべき。

(平成22年度の施策評価における総合政策審議会意見)

1. 目標・目的を持って実際に学習を行っている人の割合が下がったのは、不況の影響というだけでは無理があるので、詳細な分析が必要である。

(平成22年度の施策評価における議会意見)

1. コミュニティーのあり方を早急に検討すること。
2. 各種講座の啓発活動に努めること。
3. スポーツイベントを開催することにより、旧町間の交流を図ること。

### 4 施策の評価

① 施策の目標達成度22年度目標と実績との比較

A	→	△	【 目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合 】
		:	目標値42.0%に対し実績値40.2%であり、達成度は95.7%であった。
B	→	【	】
		:	】
C	→	【	】
		:	】
D	→	【	】
		:	】
E	→	【	】
		:	】
F	→	【	】
		:	】

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

過去の実績値を見ても、ほぼ同程度の数値が出ている。毎年不特定の市民を対象に実施しているアンケート結果から考察すると、今回も目標値に近く、ほぼ達成していると言える。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

(1) 22年度経営方針である、「ヴィーブルの活用のあり方について検討を進める。」については、福社会館について、福祉課と協議し、今後とも福祉事業の充実を図る上で必要な施設として活用していくことになった。「社会教育施設の統廃合と有効活用の検討をさらに進める。」については、合併前に両町に設置されていた郷土・歴史資料館・図書館について協議し、地域の利便性や有益性を考慮しながら効果的運用を図ることとした。「平成22年度の「生涯学習のまち(都市)」宣言に向けて取り組み、市民の意識高揚を図る。」については、「生涯学習のまち(都市)宣言」宣言の意義を十分考慮する必要があり、生涯学習の取り組みが住民のニーズに合致しているか検証して行くこととした。

(2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成22年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、生涯学習講座開催事業があげられ、貢献した事務事業には図書館まつり実施事業とスポーツ体験教室開催事業があげられた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- (1) 各種施設、設備の老朽化に伴う計画的な整備。
- (2) 「生涯学習のまち(都市)宣言」の検討と生涯学習の推進。
- (3) 社会情勢の変化を見極め、図書の本数の整備。
- (4) 図書館を活用した、「夏休み自主学习支援事業」の検証と取り組み方針。
- (5) 平成24年度に熊本県民体育祭が菊池地域を会場として開催されるが、本市での実施体制や施設の整備。
- (6) 自主的学習やレクリエーションスポーツを実施する地域や団体が増加しており、ニーズに合ったレクリエーションスポーツや学習意欲に対する情報の提供、備品等の整備。

④ 第1期基本計画の振り返り、総括

【第1期基本計画の方針】  
 生きがいのある人生を送るため市民自ら生涯学習に取り組みやすい環境づくりにつとめる。

【方針に対する振り返り】  
 生涯学習に取り組みやすい環境をつくるために、講座や教室の受講者にアンケート調査を行い、講座の種類、参加しやすい時間帯、参加費など、住民のニーズの把握に努めた。また図書館では、図書蔵書の整備や子ども読書まつりなどを実施し、さまざまな情報提供に努めた。

**5 施策の22年度結果に対する審査結果**

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成23年7月13日)

- ・引き続き生涯学習に取り組みやすい環境づくりに努めていく必要がある。
- ・市民の健康づくり、医療費の削減を目指し、生涯スポーツの推進を図っていく必要がある。

② 総合政策審議会での指摘事項平成23年 8月 10日、17日、24日まとめ)

- ・健康づくりの観点(視点)からのスポーツの推進も必要ではないか。
- ・市民が目標・目的をもって取り組めるような方策の検討が必要である。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成23年9月30日)

- ・健康づくりや医療費削減にもつながる目標設定を行ない目標達成のための啓発をすべきである。
- ・市体育協会の今後について方向づけをすべきである。
- ・生涯学習の更なる推進が必要である。

**6 次年度に向けた取り組み方針**

● 政策推進本部 平成24年度合志市経営方針(平成23年10月12日)

**21. 生涯学習の推進**

1. コミュニティのあり方の検討を進める
2. より多くの市民が参加しやすいように、各種講座の内容充実と啓発に努める
3. 各種講座を通して市民の交流と健康づくりを推進する

**22. 生涯スポーツの推進**

1. 様々なスポーツイベントを開催することで、市民の交流と健康づくりを推進する
2. より多くの市民が参加しやすいように、各種スポーツ教室の内容充実と啓発に努める

施策マネジメントシート3(22年度目標達成度評価)

基本事業名	67 学習・スポーツの啓発	基本事業担当課	生涯学習課						
対象	学習やスポーツに取り組んでいない市民	意図	学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる施設や学習内容を知ることができる						
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	%	目標値				58.0	58.5	59.0	60.0
		実績値			57.5	65.7	61.8	56.0	58.3
B	%	目標値				61.8	62.8	63.3	63.8
		実績値			60.8	63.4	63.1	62.0	63.9

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**  
 学習について、目標値については、合併後、学習施設については西志志ではコミュニティ単位で取り組まれていたが、身近な学習施設だけでなく、市全域の学習施設の利用により、幅広い取組みにつなげてもらうように啓発していくこと、22年度には60.0%になると設定した。  
 スポーツについては、目標値については、高齢者向けのスポーツ体験講座を強化、拡充すること、対決型スポーツから軽スポーツに重点が移行してきており、気軽に参加できるようになるので、19、20年度では、1%程度の伸びを期待できる。その後は0.5%程度伸びると考え、22年度では、63.8%と設定した。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**  
 A.市民の生涯学習に対する高まりはあるものの、経済状況の悪化等によるライフスタイルの変化により、目標値を下回ったと思われる。今後、目標値を達成するためには、市民ニーズに沿った講座・教室内容の充実や図書館の蔵書整備を図って行きたい。  
 B市民の健康に対する高まりやスポーツ体験教室等により、スポーツに取り組む市民が増え、目標値を上回った。今後も目標値を上回るためには、ニュースポーツの普及や施設・備品等の整備を進めて行く必要がある。

基本事業名	68 学習やスポーツへの参加機会の提供	基本事業担当課	生涯学習課						
対象	市民、市外からの通勤・通学者	意図	学習やスポーツに参加する機会がある						
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	%	目標値				45.3	45.5	45.8	46.0
		実績値			45.1	50.8	47.0	48.1	48.5
B	%	目標値				42.9	43.3	43.6	44.0
		実績値			42.6	46.5	44.2	45.2	45.5

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**  
 学習について、目標値については、個々人の状況もあるので、大きくは伸びにくいですが、身近な学習施設だけでなく、市全域の学習施設の利用や新しい学習メニューの開設により、22年度の目標値を46.0%として設定した。  
 スポーツについては、新しい学習メニューの開設により参加機会の拡充を図ることで、22年度の目標値を44.0%と設定した。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**  
 A.今後も市民のニーズにあった講座、教室、大会等の開催により、学習・スポーツ機会の提供に努める。  
 B.ニュースポーツ大会やスポーツフェスティバルにより、簡単に取り組めるニュースポーツへの関心が高まり、区や団体のレクリエーションでの取り組みが増加し、スポーツに親しむ市民の割合が増加したと思われる。今後も備品や施設の整備を進め、親しみやすいスポーツの普及に努める。

基本事業名	69 生涯学習団体やスポーツ団体の育成	基本事業担当課	生涯学習課						
対象	取り組んでいる市民	意図	・学習やスポーツに取り組む仲間ができる ・学習やスポーツリーダーになる						
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	団体	目標値				380	384	387	390
		実績値			376	297	338	338	347
B	%	目標値				81.0	82.0	83.0	84.0
		実績値			79.8	79.8	57.4	57.4	57.4

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**  
 団体数の微増と指導者育成に力点を置いた事業の展開による指導者増加を見込む。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**  
 A.活動している生涯学習・スポーツ団体数においては、主催講座やスポーツ教室などの参加者が、自主グループとして活動を始めるなど、少しずつ増加している。今後もニュースポーツや新しい生涯学習講座・教室を開催し目標達成を目指す。  
 B.市内在住のインストラクター数/生涯学習施設で各種講座を担当しているインストラクター数はともに変化は見られなかった。

基本事業名	70 生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備	基本事業担当課	生涯学習課						
対象	市民、市外からの通勤・通学者	意図	活動する場がある						
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	%	目標値				73.9	74.2	74.6	75.0
		実績値			73.6	74.1	74.6	57.0	63.0
B	%	目標値				73.4	74.0	74.5	75.0
		実績値			72.9	74.5	74.9	57.3	63.2

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**  
 施設の拡充等困難な状況であり、各種事業の企画などで啓発を行い従来の施設を周知することを条件として目標値を微増で設定した。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**  
 施設の老朽化など、建築から年数を経過した施設が多くなり、改修や修理が全体に行き届いていない状態であるため、目標値を下回っていると思われる。今後は、快適に市民が利用できるよう各施設の維持管理に努めながら、老朽化した施設の計画的改修を進め、親しみやすい施設の整備に努めたい。